



すすき。尾花とも言  
う。かやぶ  
き屋根に使  
った。

会員の皆様、コメの収穫期も終わり、秋が深まってきました。それぞれのお仕事や、ご趣味、お取り組みに、ご活躍のことと思います。新型コロナウイルスに対する非常事態宣言が解除され、感染者も少しずつ減少の傾向にはあります。しかし、以前のような日常生活とは、まだほど遠く、マスク着用や、うがい・手洗いといった、新しい生活スタイルは、今後も、コロナとの共存した生活を送っていく上で、避けては通れない状況でもあります。

さて、そんな中で、私たち京都北部国際支援ネットは、2ヶ月ごとに総務会（役員会）をし、それまでの取り組みを振り返りながら、次の取り組みに向けて、会員の皆様の力をお借りしながら、進んでおります。

総務会を9月に開催しました。そのことも含め、8月以降の取り組みの様子を、お知らせします。

## 教科学習にがんばっている生徒達の日本文化体験 ～谷口総務宅での生け花体験～



柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺（正岡子規）

私たち京都北部国際支援ネットは、日本語を母語としない生徒達や市民へ、日本語学習支援や学校での教科学習支援を行っています。その支援と共に、日本で暮らしていく上での生活相談や法律相談、そして、日本文化を理解する上で大切な、文化体験学習も行っています。

その1つとして、今回、支援ネットの総務であり、華道・茶道の先生でもあります谷口信子さんの自宅にて、日本語教科学習支援を受けている高校生達の希望により、「生け花教室」を開催しました。この取り組みには、読売新聞の記者さんも同席され、2時間ほど取材されました。その様子が9月の「中丹・北部版」に大きく掲載され、取り組みに対する好評を、いろんなところから得ています。この記事のコピーを添えて、報告いたします。

外国籍児童・生徒達や日本語を母語としない青少年が、日本の学校で楽しく学習し、しっかりとした学力をつけて、それぞれの夢を実現できるように、日本語や教科学習の支援を今後も続けていくことは、私たちの支援の中心ですが、外国籍の青少年や市民が日本で生活していくためには、日本の文化や伝統を理解することも必要です。

そのためには、早い時期から、その学習や体験を行うことが大切です。今後も、2回目3回目と、華道（生け花）や、その他の日本文化の体験学習を、支援ネットとして開催し、会員や市民とも交流できる場にしたいと思っています。

# 日本で学び 夢かなえて

## 舞鶴の元教師ら 外国出身高校生支援

元教師らで作る舞鶴市の団体「京都北部国際支援ネット」が、日本語を母語としない高校生らの学習をボランティアで支援している。高校生になると公的支援の対象から外れることもあり、「継続的な指導が必要」と、独自に始めた。生徒は「日本で夢がかなえられる」と喜んでいる。  
(二谷小百合)



後野代表（後列左）に見守られながら生け花を学ぶ（前列左から）田中さんと池田さん（舞鶴市で）

同ネットは2019年秋を受けて、市内の小中学校にあたっている。に発足。現在は約40人の会で日本語を母語としない児童代表を務めるのは、元教員が登録し、市教委の委託児童の学習支援に個別で師の後野国雄さん(76)。定

## 「継続的指導必要」独自に

年退職後、別の団体で児童生徒に日本語指導する中、「言葉の壁」の前に挫折する高校生らの姿を目の当たりにした。生徒が日本で安定した生活を送るには、義務教育を終えた後の学習面でのサポートが欠かせないと、同ネットを結成し、活動を始めた。

支援を受ける生徒の一人が、市内の日星高校2年田中聖莉奈さん(17)。フィリピンの中学を卒業後に来日。日本語はいさつ程度しかわからなかったが、同ネットの助力で高校受験に臨み、合格した。「みなさん熱心に教えてくださった。合格通知が来たときは涙が出た」と振り返る。

同高1年の池田アリーナさん(16)は、小学6年の時にフィリピンから来日して以来、指導を受ける。「日本語がわからなくて教室であてられても答えられず恥ずかしかった。一生懸命教えてもらい、わかってくる勉強が楽しくなった」と感謝する。

2人は現在も、同ネット

のメンバーから、人文系の科目を中心にして定期的に教わっている。田中さんは看護師を、池田さんは大学に進学してパイロットを目指しているといい、2人は「支援がなければ夢を持てなかった。本当に助けてもらい感謝している」と笑顔で話す。

同ネットは、日本の文化を知ることが大切として、生け花や茶道などに触れる場も設けている。2人も7月、メンバーの谷口信子さん(76)の自宅で、生け花と茶の湯の指導を受けた。2人は生け花が完成すると「かわいい」と笑顔を浮かべ、互いの作品の写真をスマートフォンで撮って楽しんでいった。

後野さんは「子どもたちは会話の習得は早いですが、授業は言葉遣いが異なるため壁にぶつかることもある。勉強がわかるようになると、学校も楽しくなり、将来に希望も抱くようになる。これまで以上に子どもたちを応援したい」と意気込んでいる。

(谷口総務宅での生け花体験新聞記事 読売新聞より)





## 小学校・中学校での日本語・教科学習支援

舞鶴市教育委員会からの委託を受けて、市内の小学校・中学校で、日本語を母語としない児童・生徒への、日本語・教科指導の支援をしています。その報告をします。

♪さざんか  
さざんか咲  
いた道、た  
き火だたき  
火だ落ち葉  
焚き、あー  
たろうか、  
あたらうよ  
…

令和3年度は、4月から、小学生児童8名、中学校生徒2名の、日本語及び学校での教科学習支援に当たってきました。この10月より新たに、両親がフィリピン籍の小学校低学年の児童の日本語・教科学習支援の要請を受け、その支援を開始しました。その支援内容も含めて、担当支援員のレポートを、ここに掲載します。

この児童は、日本語の日常会話はできますが、小学校入学後の学校での教科学習の理解は少し困難なので、別教室で学習していました。しかし、日本語支援があれば、クラスで一緒に学習する方がいいのではないかとということで、2年生の2学期より学級で教科学習をすることになりました。その支援を私たちのネットに依頼されてきました。

それでは、この新たな児童の支援を含めて、今回は、義務教育における児童・生徒への支援、及び、聖母訪問会での中・高校生徒へのネットとしての支援の取り組みについて、担当支援員の方より具体的な取組について報告を頂きました。（尚、添付写真につきましては、児童の保護者の了解のもとに、載せさせて頂いております。）（次回は、市民への支援の紹介を！）

### 1. A子さん（小学校1年生 中国籍）……（後野国雄）

「おはよう」、「元気」、「今何しているの」、「久しぶりだね」、というような日常会話には、ほぼ困りません。しかし、学校で学習する次のような国語教科書の文章や表現は、理解できません。

例えば、つい最近学習しました「うみのかくれんぼ」という国語の教材のお話についてです。

「うみのかくれんぼ」（小1）は、はまぐり、たこ、もくずしよい（カニのなかま）が、それぞれ敵から身を守る方法を説明した文章。それを読んだの問い。

「次の（ ）の中に当てはまる正しい言葉を書き入れなさい」

ア. 何が どのように かかれて いるのでしょうか？

#### 解答例

1. （ はまぐり ）が（ つよいあしをのぼして ）、  
（ すなのなかに ）かかれている。

指導・支援している小学校1年生の児童は、読めるようになっても、この文章の意味は、ほとんど分からない。音声変換器を使って母国語で「意味がわかる？」と聞くと、日本語で「分からない」と答える。それで、「はまぐり」の「つよい」「あし」を「のぼして」、「すなのなかに」、「かかれて」等々を、1つずつ母国語に変換して説明すると、この児童は理解し、嬉しそうにニコッと笑って、「わかった」と返事をする。これだけでも小学校の1時間（45分）はあっという間に済んでしまう。



そして、テストになると、問1.「なにがかくれていますか？」 答「はまぐり」

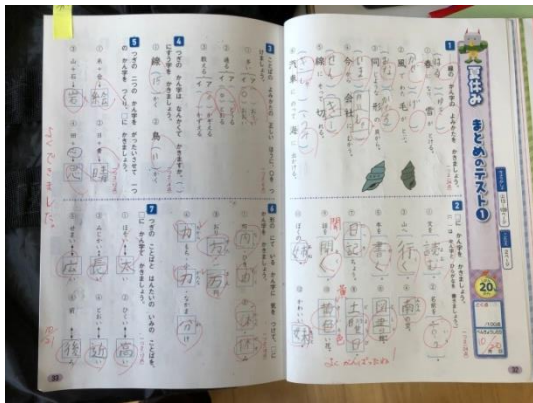
この「問」の日本語は理解できない。これを母国語に直していくと、「問」は直ぐに理解するが、日本語のどれかがまだ理解できていないので、再び教科書を読み直させ、考えさせ、文の意味を理解すると、直ぐに答えを出して「はまぐり」と書く。

つづいて、問2.「どのようにかくれていますか？」 答「つよいあしをのぼして、すなのなかにかくれている」

この質問などは、更に理解がむずかしい。全く質問の意味が分からない。教室では理解できないので、日本語支援の中で、母国語で質問の意味を理解させ、再度教科書を読ませ、答えさせると、「わかった」と、嬉しそうに笑顔で答案用紙に書き込んでいく。「良く書けたね」と褒めると、嬉しそうに、さらにやる気を出してくる。

## 2. 日本に来て2年目（小学校3年生）……（井関 強）

小学3年生のT君は、昨年度5月、父親の仕事の関係で舞鶴に来た。両親とも中国人で、十分には日本語を理解できない。そういう中での支援のスタートだった。はじめは、スマホの翻訳機能を使いながら会話をし、「あいうえお」の指導から入った。その後、小学1年生のワークブックを使い、漢字や簡単な文章の読みなどを学習支援した。初めのうちは集中が1時間続かず、途中で休憩を取りながら行っていた。



3年生になり、友だちとの普段の会話から日常的な言葉についてはある程度理解をし、私との会話もできるようになってきた。現在2年生のワークブックを使い漢字の練習を中心に行っている。単元ごとのテストでは、練習時間を3分～5分取り、その後テストをするという形を取っている。一生懸命練習しテストではほ

ぼ100点をとることができる。最近学習への意欲が高まり、また1時間集中できるようになるなど、彼の成長はめざましい。

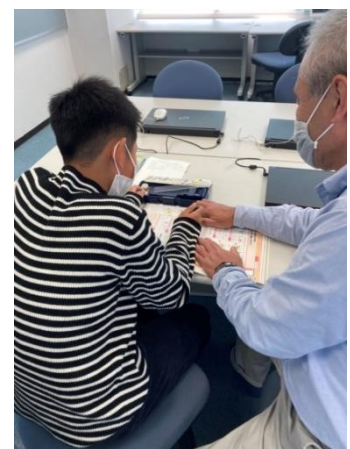
## 3. 日本に来て2年目（中学2年生）……（井関 強）

（2の支援教室）

中学2年生のA君には社会科を中心に支援をしている。彼は、かなり日本語を理解し、日常会話にもほぼ支障がない。

社会科の支援では、①社会科の教科書を声を出して読み、分からない言葉を書き出す。②その言葉の意味を教える。時にはスマホで画像などを見せながらイメージをさせる。③その範囲のワークブックをする。④解説をする。というパターンで毎時間繰り返している。

文字がまだ十分丁寧に書けない点などはあるが、学級では学級委員をしたり、体育祭では種目委員をしたりと、たいへん意欲的な学校生活を送っている。部活動ではスポーツクラブ部に所属し、熱心に活動している。



2人とも、たいへん前向きに学校生活を送っており、彼らの将来のために、これからもしっかりと支援をしていきたい。

#### 4. いろいろな国から来ている児童への支援に関わって……（後野まゆみ）

A君（小3パキスタン籍）、B子さん（小2ブラジル籍）、C君（小2バングラデシュ籍）、D子さん（小2パキスタン籍）、E君（小2フィリピン籍）

私は上記のように、いろいろな国から来ている児童の日本語や教科学習の支援に当たっていますが、次の様な事を大切にしながら、取り組んでいます。

##### ア. 支援にあたって大事にしていること

最初の打ち合わせの時の出会い（第一印象）を大事にしている。なぜかという、この子たちは、日本の学校に入学・編入し、日本語がまったくわからない状況（少し分かる子どももいたが）で、毎日の学校生活をしている。大変な緊張感の中で生活していると思われる。その上、見たこともない人に出会い、授業中に他の教室に一人で行くという、計り知れない不安な状況だから、その不安が和らぐような出会いにしたい。



もみじ。やがて、紅葉となる。

##### イ. 学習規律と授業の流れ

たとえ、一人（1対1）の授業であっても、学習規律を大事にしている。チャイムが鳴る前に教室に来ること、丁寧に字を書くこと（姿勢も大事）、わからないときは、いつでも質問すること、などを最初に約束する。

学習の初めに、いつもすることは、挨拶、その日の日にちと曜日、天気の確認である。そして、ひらがな、カタカタ、漢字へと進んでいき、国語の教科書の音読をしながら、わからない言葉の意味の説明をしている。ひらがな、カタカナ、漢字が、ある程度読めるようになった児童に対しては、教科学習支援と重ねて日本語学習支援を行っている。

また、学習にのってこない児童がいた時は、絵本を活用したり、音楽が好きな児童の時はリコーダーを5～6分演奏したりしてから、学習に入っていったこともある。その児童は、なかなか、ひらがなや漢字の学習にのってこられなかったが、リコーダー演奏では、私と二重奏ができたり、歌をハモって歌うことができたりしたときは、感動だった。

##### ウ. 支援全体について

支援をしていく中で、一番大事にしてきたことは、担任の先生との連携である。毎週の週案をもらい、学習の内容について子どもに「どんな勉強をしているか」「わからないことはないか」など、話題にしていく中で、色々な話ができる。

時には、友達関係のトラブルで困っていることを話してきたり、家庭での生活を話してきたりする中で、ゲームを長時間していることから生活のリズムが崩れていることを知り、担任の先生に伝え、先生が保護者と相談されて上手く解決されたこともあった。

また、日本人でない親が、ひらがなや漢字を教えようと努力されたのは良かったのだが、その保護者自身が正しい文字の書き順を知っておられないため、支援の中ではちゃんと身につけていた文字が、復習すると、書き順などが全く違ってしまっていたこともあった。



あけび。我が家の岸に、鳥が山から種を運んできた

音読をさせるとき、小1の教科書は文節で間をとって書かれているので分かりやすいが、学



年が進んでくると、句点から句点、句点から読点までが、すきまなく続くようになるので、わかりにくい。特にひらがなが続くと、どこで切るのか、わからなくなる。その時は言葉の意味を説明し、スラッシュ（/）を書き入れていくと読みやすくなるので、そのように支援している。

ひらがなやカタカナが読めるようになると、漢字学習に入る。その時、促音〔き<sup>っ</sup>て、と<sup>っ</sup>た〕、撥音〔に<sup>ん</sup>じん、べ<sup>ん</sup>きょう〕、拗音〔き<sup>ょ</sup>うしつ、き<sup>ゅ</sup>うしよく〕、長音〔ひらがな：おか<sup>あ</sup>さん、いも<sup>う</sup>と、カタカナ：ケ<sup>ー</sup>キ、シ<sup>ー</sup>ル〕等の、説明や練習の時間がなかなか確保できない。その時は、音読の時間やワークブックの学習の中に出てきた時に、説明をするようにしている。

最後に、報告書の活用について。報告書には管理職等の印の欄がある。学校によっては、その欄に、毎日、校長先生や教頭先生、担任の先生の押印と共にメッセージが書かれている。お忙しい中で大変な作業だと思うが、私はそれを出勤したときに見るのが大変楽しみである。また、校長先生からは、子どものワークブックやノートにも、一言のメッセージが必ず入っている。授業で子どもにも確認をさせ、励みになるように話をしている。

## 「聖母訪問会」での 北部国際支援ネットとしての独自の教科学習支援

「一緒に学習をしながら」……（菅原 浩敬）

A 子さん（高校2年）、B 子さん（高校1年）、C 男くん（中学2年）、そしてこの夏から、D 子さん（中学2年）も加わって、部屋は、子ども達の笑顔と学習の熱気であふれています。ある時は支援者の優しいアドバイスの声がし、ある時はきちんと学習しないと、厳しく要求する支援者の声のしている時も。でも、いつも子ども達の目はキラキラと輝いています。

私が学習会に入れてもらってから1年ほどが経つでしょうか。初めの頃は、ひと月に何度か、頼まれて参加するくらいでしたが、最近は回数が増えてきました。退職して数学の授業をしなくなって早5年。中学までの内容、問題を読みながら、どう教えるかが出てくるのですが、高校生相手だと、そういうわけにもいきません。どう説明すればわかってもらえるのか、苦勞するのですが、その先の「わかった。」の笑顔にたどり着くために、知恵を絞ってやっています。でもそんな時間が好きで、教えることを楽しんでます。

一番年長の A 子さんの数学には、数列や $\sin \theta \cos \theta$ なんていうのも出てくるので、私が担当して一対一で学習を進めています。彼女は、小・中学校の時に計算力をつけてきているのですが、図形単位については積み上げがありません。でも、自分の能力を磨くために、真面目で、貪欲です。少しいぶかしそうな顔をしたと思ったら、「質問してもいいですか」と攻撃です。納得するまで攻撃（質問）は続きます。時には「分かりました」と言った彼女に、様子を見て、「本当は分かってへんやろ！遠慮するな！」と、こちらから攻撃することもあります。そこまで、信頼関係ができてきました。

彼女の努力の成果で、少し良い点数が取れるようになってきました。ただ、この後、自分で問題を読み取り、どの知識を使っていくのかを考え、自分の思いを解答に表していくという段階に入っていきます。日本語で育った者でも必ず通り、その洗礼を受けることです。ここに集う子ども達は、さらに厳しい状況で学習していくことになるはずですが、どこまで関わられるのかはわかりませんが、一緒に学習し楽しんでいきたいと、思っています。



舞鶴方面の  
西の空を望  
む

## 「児童生徒日本語学習支援事業」

小学校、中学校での、日本語を母語としない外国籍児童・生徒、あるいは日本籍の児童・生徒にたいして、舞鶴市では市教育委員会による「児童生徒日本語学習支援事業」という素晴らしい制度が確立されています。この事業によって、義務教育の公立小・中学校に通う日本語を理解出来ない児童・生徒に対して、日本語または母語（例えば英語や中国語など、その生徒の母国語）を用いて、学校での学習や生活支援を行う、また、日本語が十分理解出来ない保護者に対しては、学校と協力して支援を行う取組を行っています。このような取組を、市として行政的に日常的に、年間を通して行っているのは、舞鶴市以外ではまだまだ見られない、素晴らしい取組だと思っております。

しかし、その一方で、義務教育を終えて高校に入学した生徒達には、残念ながら、そのような支援はどこからもありません。しかも、高校や専門学校での教科学習の内容は、菅原支援員が報告しているように、中学校以上に大変高度で難しくなります。無料で借りられる支援会場もありません。



そのような時に、貸して頂けるようになったのが、聖母訪問会なのです。写真のように冷暖房の完備された教室を、いつでも貸して頂けるということで、現在この聖母訪問会をお借りして、平日に高校生や外国籍市民の支援を行っています。また、土・日曜日には、このような高校生に中学生（ただし日本語を母語としない生徒対象）も含めて、支援員のサポートのもとに、賑やかに楽しく、半日あるいは1日、教科学習支援を行っています。子どもだけでなく、外国籍市民の支援に使わせていただくこともあります。本当に、助かっています。

それで、何かお返しがしたいなと思い、年に数度、この教室のある聖母訪問会の広い敷地内の草刈り、雑木の処理や田畑の耕作を会員の皆様方と行っています。今回も11月7日（日）9時から、天気良ければ実施します。都合の付く方にはお世話になります。

### 中学校での学習内容の難しさは小学校とは異なる、しかし、その基本は小学校学習にある

小学校から中学校へ入ると学習内容は大きく変わる。

中学校では、教科での専門用語が出てきて、説明や学習内容は日常会話とは全く違って一変する。次々と難しい専門用語が出てくる。日本語を母語としない生徒には、とても理解できないし、学習について行けない。支援・指導しながら学校での学習理解は大変。例えば、**数学**では、中学校1年生に入ったらすぐに、次のような学習に入る。こんな用語がわかる？

○正負の計算  $3 - 5 =$   $5 - (-2) =$

○自然数、整数、絶対値 ○単項式 「 $-5xy^3$ の係数と次数を求めよ」

**理科**では、

○被子植物、裸子植物、単子葉、双子葉、離弁花、合弁花。 なんと難しい用語！

○花の部分の名前

めしべ（柱頭、花柱、子房）、おしべ（葯、花糸、花粉）、受粉、花卉、顎。

**英語**も難しい。2年になると、特に文法が難しくなる。規則動詞、不規則動詞、形容詞の比較級、5文型などなど。2学期の今、習っているのが、受動態と能動態、それに付随した前置詞も色々。大変です！でも、その学習の基礎は、すべて小学校の学習にあります。

日本にやって来て、日本語のわからない生徒。どうしてこんな学習について行けるでしょうか？そして数年経つと直ぐに高校受験。「わからない」という彼らの苦しみを理解しようと悩みながら、「どう教えればわかってくれるか」、学習し直しながらの支援です。

## 日本語支援教室「聖母訪問会」の 清掃及び周辺の草刈りのお知らせ（お願い）

（前略）

下記の通り、表記の「日本語学習教室の清掃及び、周辺の草刈り」を実施致します。都合のつく方は無理のない程度の参加を、お願い致します。

1. 期日 令和3年11月7日（日）午前9時～午前11時00分 現地集合
2. 内容 聖母訪問会（日本語学習教室）の清掃・周辺の草刈り
3. 準備物

ア. マスク

イ. 草刈り機、熊手等を持参できる方はお願い致します。（燃料、お茶等は準備します）

ウ. 雑巾など教室の清掃用具は全て現地にありますので、持参して頂く必要はありません。

※体調の悪い方や、お仕事のある方は決して無理に参加されないで下さい。雨天の場合は中止しますので、参加できる方は事前に参加の意思をご連絡下さい。

連絡先……事務局電話 後野 090-8887-5921 Fax 0773-77-6111

※メールアドレスをご存知の方はメールでお知らせ頂いても結構です。ご参加頂ける方はその旨、よろしくお願い致します。直接口頭で連絡頂くことも有り難いです。

### 寄付金のお礼

会員の方より、様々な形で支援を受けており、感謝致しております。

今回、会員の家族の有田宙生さんより、「ネット」に1万円の寄付金を頂きました。有田さん、本当に有り難うございました。

私たち京都北部国際支援ネットは、京都北部に住んでいる外国籍児童生徒、青年、市民の人達や、日本語を母語としていない人達への日本語支援のみならず、教科学習支援を目的に、3年前に立ち上げ、その取組を行っています。教育や教科学習支援だけでなく、私たち市民と互いに交流をしながら、よりよい社会生活を築き上げるために、日本の文化や伝統に触れて頂く機会も作り、生活、法律相談の支援も行っています。

私たちの団体は非営利団体で、基本的に会員の会費で運営しております。大切な寄付金を、その生徒や外国籍市民支援に必要な学習教材・教具費等に有効に使わせて頂きます。有田さん、本当に有り難うございました。

（文責：滝花、後野）

この「つなぐ」へのご意見、投稿等は下記へお寄せ下さい。

後野国雄 携帯TEL 090-8887-5921

滝花利朗 自宅TEL 0773-44-1734

メール [t.takihana@nike.eonet.ne.jp](mailto:t.takihana@nike.eonet.ne.jp)